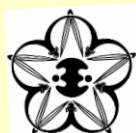


令和7年度 教 育 計 画						学校番号 39	
西条市立玉津小学校							
校長名	近藤 民好	学級数	23 (5)	児童数	519	教職員数	33

令和7年度 西条市立玉津小学校



キラキラピカピカ みんなとあくしゅ
えがおとやるきで じぶんにちょうせん



やさしさ
いっぱいの子

- 人権・同和教育の推進
- 生徒指導、特別支援教育の充実
- 異学年交流活動の充実

元 気
いっぱいの子

- 生活習慣・食育の確立
- 体育的活動・健康教育の推進
- 豊かな体験活動の推進

やる 気
いっぱいの子

- 主体的・対話的学びの推進
- 学び合い学習の充実
- 語彙力と読書の推進

キラピカ
玉の子

持続可能な社会を実現していくことを目指す教育（ESD）

【学校像】

- 安全・安心な学校
- 地域とともにある学校
- 愛顔いっぱい学校

【教師像】

- 楽しめる教師
- 協働する教師
- 信頼される教師

玉津小コミュニティスクール
「玉津で育つ、玉津を愛する子」

地域学校協働活動

ちょこっとボランティア・PTA・
学校・家庭・地域・関係機関など

重点目標	1 「やさしい子」の育成 (1) 「差別の現実及び弱い立場に立たされている存在に学ぶ」姿勢を念頭に、ハンセン病問題学習や同和問題をはじめとする様々な差別の解消や不合理な状況の解決に向けた、系統的で一貫性のある人権・同和教育を推進させる。 (2) 一人一人の児童理解に努め、教育課題の早期発見と早期対応を図るため、生徒指導、特別支援教育を充実させ、一人も取り残さない教育への手立てを講じる。 (3) 縦割り班活動等を通じた異学年や同学年との交流、さらに地域の人たちとの関りを充実させる。 2 「元気 いっぱいの子」の育成 (1) 早寝・早起き・朝ごはんと睡眠時間を意識させるなど、望ましい生活習慣と食育の確立を図る。 (2) 体育的活動・健康教育を推進し、子どもたちの活動環境の充実を図る。 (3) 人・自然・文化環境など地域と一体となった豊かな体験活動を推進する。 3 「やるき いっぱいの子」の育成 (1) 主体的・対話的に学びを深めるため、ICTを効果的に活用し、個別最適な学習を推進する。 (2) 学び合い学習を充実させ、「仲間と共に学び合う教室・学校文化」を構築させる。 (3) MIM理論や図書室の利活用を通して、楽しい言語活動を行い、語彙力向上と読書の推進を図る。 ※MIM理論とは、異なる学力層の児童にアセスメントと指導を繰り返しながら読みやすさを育む。 4 持続可能な社会を実現していくことを目指す教育（ESD教育）の推進 (1) ESD教育の意識（自分が行っている指導がどの概念の理解を深めるものかを考える）を持つ。 (2) 生活科・総合的な学習の時間、理科等の学習でSDGsの17の目標との関連性を考えてみる。 5 「玉津小コミュニティ・スクール」による学校づくりの推進 (1) ちょこっとボランティア・PTA・学校・家庭・地域・関係機関などと地域学校協働活動を行う。 (2) 安全教育・防災教育等の安全管理の見直しと、危機管理意識の高揚に向けた実践を行う。
管理運営	1 人的管理 (1) 楽しめる教師（働きがいのある職場、働きやすい環境） (2) 協働する教師（温かい人間関係に基づく校内研修の充実） (3) 信頼される教師（服務規律の遵守と危機管理能力の向上） 2 物的管理 (1) 安全・安心な学校を維持するため、日常的な安全点検と潜在的危険箇所の除去及び改善 (2) 学校運営協議会等との連携・協働による教育環境の整備と美化 (3) ESD教育（SDGs）を通して、持続可能な社会への貢献 3 事務管理 (1) 校務分掌の明確化とICTを効果的に活用した協働体制の確立 (2) 「報告・連絡・相談」の徹底と金銭や経理事務の厳正な管理 (3) 情報管理の徹底と個人情報の保護
本校教育の特色	本校は、これまで玉津小コミュニティスクール(CS)として、学校運営協議会と地域学校協働活動本部が一体となり、本校の教育目標の具現化である「キラピカ玉の子」、「玉津で育つ、玉津を愛する子」の育成を行い、その協同的な活動が評価され、令和6年度に文部科学大臣表彰を受賞した。その活動の一つ「ちょこっとボランティア」は、年間を通じて児童の安全面（交通・プール等）、環境面（草引き・施設整備等）、学習面（不登校対応・学習補助等）にも参加し、学校支援体制を支援している。 また、今年度、持続可能な社会を実現していくことを目指す教育（ESD教育）への意識を持つようにした取組、生徒指導、特別支援教育の充実を図り、一人も取り残さない教育への取組、体育的活動・健康教育の研究への取組、学び合い学習を充実させ、「仲間と共に学び合う教室・学校文化」を構築するための取組などを通して、児童・教職員・地域とともに学校の教育目標の達成を目指していく。